

事業報告書

事業名	みんなでチャレンジコンサート
【計画時の事業目的(取組課題)と実施効果】	
<p>※事業目的(取組課題)</p> <p>昨今、社会生活における様々な場面でのノーマライゼーションが叫ばれており、行政レベルや市民レベルで少しずつ浸透しているように感じられる。</p> <p>しかし、障がいのある子どもを音楽に触れさせたく音楽界に聴きに行きたいが、子どもが声を出したり、立ったりしてしまい、なかなか聴きに行くことができないという現状がある。</p> <p>また、障がいのある子どもや大人が大きな会場で発表する機会は一般に比べて大きく限られている。</p> <p>そこで出演者と観客が、障がいの特性を理解し共に楽しめる音楽会の創出を目指して、「かわさきミュージックチャレンジ」を立ち上げ活動を行っており、今回は第3回目となる。</p>	
<p>※実施効果</p> <ol style="list-style-type: none">1. 障がいのある方が、ステージで多くの人前で演奏することにより、日々の生活に活気を与え、自信につながる。2. 障がいのある方の演奏を聴くことで、理解を深めることができる。3. 障がいのある方や家族が、周囲を気にすることなくプロの演奏を聴くことができ豊かな生活につながる。4. 障がいの有無に関わらず、共に音楽を楽しむ一体感を味わい、ノーマライゼーションへの理解が深まる。	
【実施結果(成果)】	
<p>【実施時期・会場】</p> <p>日時: 令和3年1月30日(土)</p> <p>11:00 リハーサル 13:30 開場 14:00 開演 15:00 終了</p> <p>会場: ミューザ川崎シンフォニーホール音楽工房 市民交流室</p> <p>【内容】</p> <p>① 演奏の部…障がいのある方(子ども～成人)の演奏(5～10分 × 5組 = 30分程度)</p> <p>1) ピアノ親子連弾 2) ヴァイオリン二重奏 3) けん玉パフォーマンス 4) 手話×ピアノ 5) ピアノ独奏</p> <p>② 鑑賞の部…プロの音楽家の演奏を鑑賞する(10～15分 × 2組 = 25分程度)</p> <p>1) ソプラノ独唱・ソプラノ×ピアノ(平井祥代・小林宏美) 2) ヴァイオリン×ピアノ(小林貴子・小林宏美)</p> <p>③ みんなで歌おう…出演者全員で合奏「風になりたい」(10分)</p> <p>・新型コロナウイルスのため、参加者の辞退が4組あった。</p> <p>・鍵盤ハーモニカ団は集団になるためやめた。</p> <p>・みんなで歌おう「風になりたい」は合唱をせずに楽器のみとした(念のため、マスクをしての出演とした)</p> <p>【参加者内訳】</p> <p>出演・参加者… 11名(スタッフ含む)、入場者…8名、ボランティア…2名、カワサキミュージックキャスト…1名</p> <p>≪合計 22名≫</p> <p>・新規の方 2組参加</p>	

・緊急事態宣言が発令されたため、無観客開催(出演者ご家族のみ来場)をやむなくすることとした。

【チラシ発行部数・配布先】

出演者…各30枚×5組(150枚)、会場…30枚、スタッフ…各50枚×4人(200枚+50枚)

麻生養護学校…30枚、かわさきFM…10枚、諸関係者郵送6件…各2枚(12枚)

SNS発行配信…ぱらあーとネット・音楽のまち

FB・LINE・障がい児者サークルなど

【リーフレット発行部数・配布先】

出演者・来場者…50枚程度、スタッフ…各100枚×4人(400枚)

【感染症拡大予防への対応】

新型コロナウイルス感染予防対策

・事前対応:チラシ、ホームページなどへの記載

・当日対応:無観客開催(出演者家族のみ可)・入場時の手指消毒、検温、連絡先控え・控室利用 最小限・休憩時間を長くとり換気に努める、可能な限りドアを開けておく。

・後日対応:出演者・参加者からの体調変化の連絡がないか待つ。約 2 週間後、何方からも連絡がないことを出演者・参加者に通達した。

・みんなで歌おう「風になりたい」は合唱をせずに 出演者全員が楽器を持ち、ピアノとヴァイオリンの演奏に合わせて合奏をした。また、会場の方にもマラカスなどを渡して参加した。(念のため、ステージ参加の方にもマスク着用参加とした)

【改善点の成果】

・活動の理念を広めるために多くの方のご来場いただくため、チラシの配布、音楽のまち・かわさき への後援をいただき、SNS メール配信やラジオ出演ができた。

・諸関係者(福祉関係)へ郵送によってお伝えをした。

・麻生養護学校でのチラシ掲載・設置をお願いした。

・以上のような準備をしてきたが、新型コロナウイルス感染の緊急事態宣言の発令により無観客開催(ご家族のみ来場可)となってしまった。

・リーフレットを配布することにより、かわさきミュージックチャレンジの周知を目指した。

【実際の効果と課題】

※実施効果について

1. 演奏者アンケートより「僕は今日、おちついて演奏することができました」「一生懸命に演奏することができて楽しかったです」という声をいただいたことにより、生活に活気を与え、自信につなげることができ達成できた。

2. 今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、無観客開催とし保護者のみの参加とした。無観客であっても保護者から「音楽あり、手話あり、けん玉あり、とても大らかな雰囲気の中で、素敵な時間を皆さんと共有できて、とても良い時間でした。」「皆さんの努力を感じられ、自分も励まされるような気持ちになりました。大変楽しませていただきました。ありがとうございました。」という言葉をいただいた。障がいがあっても音楽を楽しみ、練習に励み、一生懸命に演奏する姿に、多くの感動を与え、理解を深めることができた。

3. プロの演奏を聴く際に、声が出たり音を出したりしても、それまでの時間に醸成された温かい雰囲気により、心を解

放して音楽を聴き楽しむことができた。

4. 障がいの有無に関わらず、会場の皆が音楽を共に楽しむことができた。また「皆で歌おう」の「風になりたい」の演奏では、会場が一体となり盛り上がり演奏を楽しみ、一体感を全員が味わうことができた。

※アンケート結果

入場者24名中回答12名(50%)

■男性3名 女性9名

■年齢

10代2名 20代2名 30代1名 40代2名 50代4名 80代1名

■開催を知った理由

知人の紹介10名 その他2名

■満足度

とても満足12名

満足度の理由(文章表記)

・障がい者も一般の人と共に和気あいあいと自由に楽しんだ。

・みんなが一生懸命にやっている姿に感動しました。

・皆さんが個性的で、私も楽しかったです。

・皆さんの演奏もトークも素晴らしかったです。

■ご意見、ご感想

・もっと大勢の人に知って欲しいと思いました。

・頑張ってください。応援しています！

・参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。

・市役所などにチラシを置くと、もっと多くの人が来ると思います。

・また見に来たいと思いました。とても素晴らしいコンサートで楽しめました。

・これからも応援させていただきます。

・お忙しい中、このような状況の中開催して頂き、本当にありがとうございました。

※課題及び今後の課題

・音楽活動が盛んな川崎市内において、安価な会場を確保することが大変難しいことが大きな課題である。今回、ミューザ川崎市民交流室という素晴らしい会場で開催することができたことは、大変ありがたく今後につながると確信している。

・今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、無観客開催とし、コロナ対応に万全を期して実施した。無観客開催は残念であったが、このコロナ禍のもと仕方ないことと考え、この活動の灯を消さず継続することこそ重要だととらえて行った。人数は少なかったが、昨年度と変わらない感動を感じ、与えることができた。

・この活動を持続していくために、団体としての体制づくりと基盤強化が必要であり、そのための人材確保、資金面、協力者及び賛同者の確保 についてさらに検討していくことが課題である。